

NEWS

多世代交流拠点施設について考える / 富まちミーティング【多世代交流拠点施設編③】を開催しました！

和泉市では、令和2年3月に策定した「和泉市富秋中学校区等まちづくり構想」に基づき、人権文化センターや青少年センターなどを集約し、現・和泉第一団地敷地に、多世代交流拠点施設を整備する計画を進めています。

富秋中学校区等まちづくり検討会議*では、当拠点施設の計画にみなさんの意見を反映していくため、和泉市と協力して、多世代交流拠点施設について考える「富まちミーティング**【多世代交流拠点施設編③】」を開催しました。全3回の富まちミーティング【多世代交流拠点施設編】にご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

*「富秋中学校区等まちづくり検討会議」とは、「まちづくり構想（地域案）」の実現をはじめ、将来にわたって住み続けたい魅力あるまちづくりを推進するために、地域の住民の方などにより設立された組織です。

**「富まちミーティング」とは、構想実現に向けて、皆さんと情報共有や意見交換を行う場です。

富まちミーティング【多世代交流拠点施設編③】には22名の方が参加され、3つのテーマについて話し合いました！

テーマ① 施設のコンセプト案について

これまでの富まちミーティング等での意見をふまえた施設のコンセプト案（修正案）について確認しました。

人権を尊重し、助けあい・支えあいの輪を広げる場
—自然と集まる みんなの居場所—

(参加者の意見)

・隣保館としての理念・運営が前提と書くだけでなく、市民の自主性だけでは解けない事柄（社会教育、労働、コロナ対策など）について、隣保館としての市の考え方・役割についても打ち出すべきだと思う
⇒富まちミーティングやプロジェクト委員会の意見をふまえたまとめとして、最終的に基本計画を策定するので、それが市としてひとつの方向性ということになるかと思う

⇒上記の案を、施設のコンセプトとして今後とりまとめていくことに決まりました！

テーマ② 施設のゾーニング案について

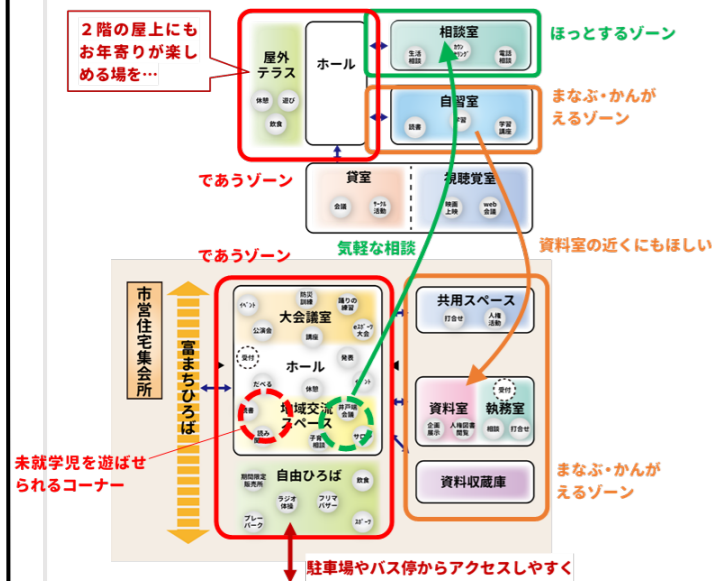
※ゾーニングの基にしているレイアウトは1つのイメージです。

具体的なプランは、今回の基本計画を元に、民間事業者からの提案を受けて決定する予定です。

これまでの富まちミーティング等の意見をふまえて作成した施設ゾーニング案を元に意見交換しました。

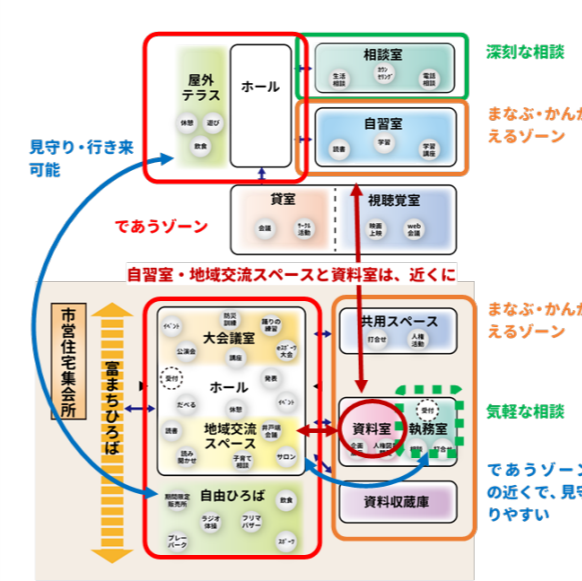
全 全体のこと 会 であうゾーンのこと 集 つどうゾーンのこと 学 まなぶ・かんがえるゾーンのこと 安 ほっとするゾーンのこと 守 みまもるゾーンのこと 他 その他

1班



- 会**
 - ・キッズスペースや絵本などの図書コーナーがあり、未就学児の親子が来やすく、子育ての相談もしやすくなるよ
 - ・駐車場やバス停からアクセスしやすいよ
 - ・屋外は芝生や樹木があり、のんびりでき、軽い運動もできるとよ
- 学**
 - ・人権に関する資料を読んで勉強できるスペースが、資料室にもあるとよ
 - ・人権や歴史の資料室は左図の配置がよ
- 安**
 - ・相談室は2階の奥まった位置でよいが、であうゾーンにも気軽に相談できる場所があるとよ
- 他**
 - ・わかりやすい案内表示（床に矢印など）があるとよ
 - ・これだけ大きな施設なら医務室も必要では

2班



- 全**
 - ・そもそも施設をゾーニングして分けるのではなく、であいや交流、見守りなど、施設全体で実現すべきことだと思う
- 守**
 - ・執務室は見守りがしやすいように、であいゾーンから近い場所にあるとよ
 - ・屋外テラスから自由ひろばの様子を見守ることが出来て、何かあった時に行き来できるとよ
- 学**
 - ・資料室は本を読むスペース（地域交流スペースや2階の自習室）の近くにあり、1階と2階でテーマを分けて資料や本を置けるとよ
 - ・まちライブラリー（寄贈を受け付ける私設の本棚）のようなものがあってもよ
 - ・貸室や視聴覚室は、パーティションで仕切る事も可能とし、1人でも気軽に利用できる施設だとよ
- 安**
 - ・深刻な相談は2階の方が良いが、気軽な相談ができる場所が1階にあってもよ

問合せ
連絡先

和泉市人権文化センター（総務部人権・男女参画室）
【メール】 jinbun-c@city.osaka-izumi.lg.jp 【電話】 0725-44-0030



「和泉市富秋中学校区等まちづくり構想」は、このQRコードを読み取りダウンロードすればご覧いただけます。



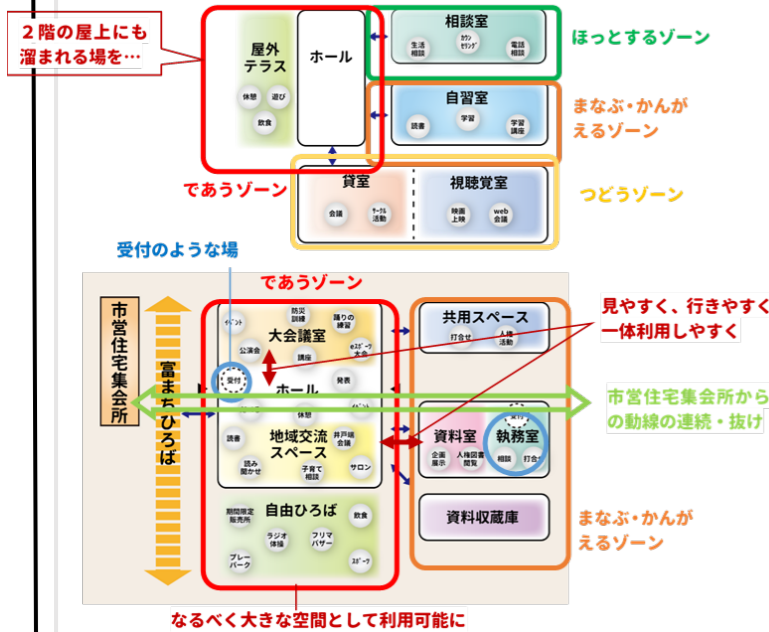
⇒裏面へつづく

テーマ② 施設のゾーニング案について

※ゾーニングの基にしているレイアウトは1つのイメージです。
具体的なプランは、今回の基本計画を元に、民間事業者からの提案を受けて決定する予定です。

全 全体のこと 会 であうゾーンのこと 集 つどうゾーンのこと 学 まなぶ・かんがえるゾーンのこと 安 ほっとするゾーンのこと 守 みまもるゾーンのこと 他 その他

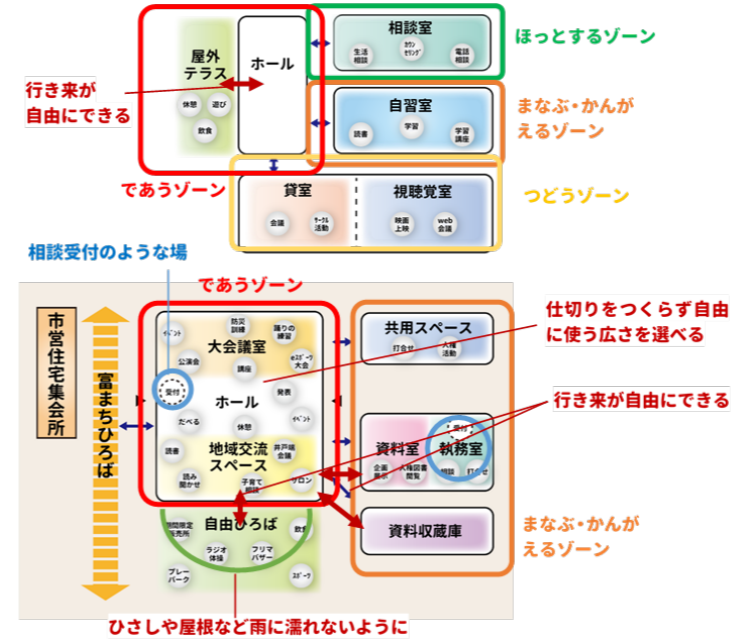
3班



- 全**
 - ゾーンについては、左図案でおおむねよい。
 - 市営住宅集会所—とみまち広場—多世代交流拠点施設と空間・動線が連続し、抜けられるとよい。(入りやすくなる)
- 会**
 - 地域交流スペースが、新たな人が集まる場になるので、ここを中心に入りやすく
 - ホールと大会議室は、見やすく、入りやすく、一体的にも使えるようになる
 - 1階のであうゾーンは、なるべく一つの大きな空間としても利用できるようになる
 - 2階は屋上にも上がれて、そこにたまる場があるとよい
- 守**
 - 受付のような場がであうゾーンにもあり、誰かがいるとよい
- 学**
 - 資料室や展示スペースは1階に設け、自然に足を運ぶよう見やすく、入りやすいしつらえがよい
- 集**
 - 会議などの目的がある人が来る室は2階でもよい
- 安**
 - 相談室は離れている場所にあるのがよい。
 - エントランスが複数あり、相談に来る人も入りやすくなっているのがよい

- 他**
 - 水害等の際に電源供給がとまらないよう電気室等は上階が良いと思う
 - 災害時にも市営住宅を含めて電源が確保できるようになっていると良い

4班



- 全**
 - ゾーンについては、左図案でおおむねよい
- 会**
 - 各室は部屋を区切り過ぎず、活動に合わせて広さを調整できるとよい
 - 自由ひろばは、府道30号線沿いは危険。市営住宅側に配置した方が安全なうえ、人の目もあるとよい
 - 子どもが遊べる空間は、雨でも利用できるように、交流スペースの一角や自由ひろばにひさしをかけられるとよい
 - 屋外空間と屋内空間は掃出し窓などで一体的な利用ができるようになる
 - 富まち広場側はにぎわいが伝わるしつらえに。掲示板があると足を止めてくれるかも
- 守**
 - 受付のような場がであうゾーンにもあるとよい
- 学**
 - 資料室や展示スペースはオープンなつくりとし、気軽にふらっと立ち寄れるように
- 安**
 - 相談室はプライベートな悩みを相談する場と、気軽に相談できる場が分けてあるとよい
 - 気軽な相談は、であうゾーンにあって、住宅や教育、子育てなど様々な相談に応じられる総合相談窓口のような形になるとよい

- 他**
 - 富まち広場は、「富まちストリート」など、通りとしての名称のほうが、しっくりくる
 - 今は暗い場所なので、街灯などを設置し、明るい道になるとよい

テーマ③ 施設の使い方・ルールについて

利用者がお互いに気持ちよく利用していくため、施設の使い方・ルール、施設への関わり方の方向性について意見交換を行いました。

(参加者の意見)

- 1階の大会議室や地域交流スペースなどは、他の会議室のような予約制利用ではなく、自由に利用できるようにしてほしい
- 新たな施設の利用予約制度について、市内・市外利用者の予約ルールの違い（市内団体は利用日の○日前から予約可能など）や、貸室の利用料、子どもだけが使えるようなルールなど、色々な人が利用しやすいようにみんなでルールを考える場が必要だと思う
- 災害時の避難所運営のことを考えると、市民ボランティアが普段から施設づくりに関わっていくことで、災害時の力になると思う
- 一旦設定したルールでも実態にそぐわないルールとなってきたら変える必要がでると思う。柔軟にルールを変えられるような施設運営とするため、運営委員会のようなものがあるとよい

全体のまとめ

- 富まちひろばから入ったところに位置する「であうゾーン」のつくりかたが重要
 - ・「であうゾーン」に様々な機能（交流や学び、見守り等）を持たせること
 - ・それぞれが色々な使い方をするためには使い方やルールも必要
- 使い方・ルールについて、市や施設管理者と一緒に、施設利用者や地域住民が施設づくりに関わる体制・場が大事
 - ・ルールをみんなで考える、変えることができる体制
 - ・普段から施設づくりに関わることで日常や災害時の助け合い・支え合いの基盤に 等
- 施設づくりへの関わり方として、ルールだけでなく、どうすれば人が大勢くるか、この施設をどのように盛り上げていくかについても、考えて、関わっていけるとよい

富まちミーティング【多世代交流拠点施設編】は全3回で終了いたしました。今後、これまでにみなさまと議論した内容を踏まえて、和泉市が基本計画をとりまとめる予定です。引き続きよろしくお願いいたします。